

月刊

GPP



Vol.62

令和2年12月号

株式会社  
グロースパートナーズ

## 2021年の今頃はどうなっているんだろう・・・

早いものでもう12月、2020年も終わろうとしている。コロナで始まってコロナで終わろうとしている。

いろんな意味で制約を受けた2020年であったが、セルドロン事業はじっくりと腰を落として進んだ1年であったように思う。今年5月にはNETIS登録され、8月には一般社団法人 生コン・残コンソリューション技術研究会が立ち上がり、“残コン・戻りコン”にスポットライトがやっと当たった。今後、“残コン・戻りコン”の処理方法は確実に規格化・標準化されるであろうから、セルドロンが活躍する場面も増えることであろう。

また、社会全体として気候変動、地球温暖化、CO2削減、SDGs、ESGといったキーワードを目にしない日は無い。私も遅ればせながら今年の10月からペットボトル不買を始めている。去年、沖縄県・宮古島を訪問した際に、台風の過ぎ去った後とは言え、波打ち際に夥しい数のペットボトルが打ち上げられていたことに心を痛めた。そして今年10月、GOTOキャンペーンの恩恵を受けて初めて行った北海道・ニセコの宿泊先のベランダで「ペットボトル買うのやめよう」と、ふと思い、いまではお茶が入った水筒を欠かさず持ち歩いている。

セルドロンの引き合いも、“残コン・戻りコン”のみならず、「近辺に沢山の天然記念動物がいるので環境を破壊したくない」「農業用ため池工事に使用するので環境に負荷を掛けたくない」「とにかくセメントも、石灰も、ポリマーも使いたくない」と、はっきりと理由を言って頂ける方が増えてきた。セメントや石灰は言わずもがな、ポリマーにおいては昨今、マイクロプラスチックの要因であると指摘されてきており、時代がセルドロンを徐々に、そして確実に求めつつあると実感している。

京大・木村先生が推進されているエチオピア・MNGDプロジェクトもコロナの影響で停滞してしまっているが、先日、現地よりセルドロンの原料となりうる植物発見の報告があった。現地の方がデンプンを採取している植物の残渣に、より多くのセルロースが含まれているという内容だ。

2020年はセルドロンの方向性が定まり、決して楽ではないが、確実に進んでいることを実感出来る1年になった。来年こそ、是非、花を咲かせたい。

藤井 成厚

# セルドロン案件進捗情報

## ◆ダム工事進捗について

10月号にてご連絡させていただいたダム工事案件についてご報告いたします。

### 水位変動について

6月25日水位高さ5m



10月1日水位高さ2.75m



ポンプによる排水は10月26日開始

取水棟周り20m X 20mの堆積土を改質予定

今回の工事は、色々トラブルが発生しておりますがセルドロンが活躍できるシーンまで待機中です。

1月中には正式に活用いただけると思います。

## 本社移転のお知らせ

2020年12月1日に  
下記住所へ移転しました。

新住所

〒107-0052

東京都港区赤坂6-10-42

パシフィックパレス赤坂401

TEL: 03-4405-2642

FAX: 03-6369-3805

※電話番号やFAX番号に変更はありません。